

120年の軌跡

7

このコーナーでは、宇都宮の120年の歩みを年表と写真で紹介します。

昭和35～40年



◀国道4号線バイパス
高度経済成長期を迎えて
車社会が到来し、宇都宮市
周辺でも国道4号の混雑
を避けるバイパスが開通
しました。宇都宮工業団地
開発計画と共に東部地域
の開発に大きな刺激を与
えました。

宇都宮市年表

西暦	昭和	主な出来事
1965	40	▽市内全域が都市計画区域に決定 ▽市下水終末処理場の操業が始まる ▽富屋小前、西小東、横川西小前初の歩道橋を設置
1964	39	▽市街地を中心に初の住居表示を実施 ▽オリンピック聖火が宇都宮に到着
1963	38	▽桜通り(軍道)の桜が伐採される
1962	37	▽国道4号線バイパスが完成
1961	36	▽宮原公園に野球場が完成
1960	35	▽大谷が県立自然公園になる

▶桜通り(軍道)の桜 戦時中から、北は師団司令部(現在のNHO栃木医療センター)前から、南は野砲連隊(現在の宇都宮短期大学附属高等学校)前までの直線道路は、「軍道」と呼ばれました。道路の両側の桜並木による見事な花のトンネルが市民に親しまれてきましたが、アメリカシロクロソリの害に遭い伐採されました。



はつらつ宮っこ

今、輝いている市民

ライバルであり、信頼できる仲間と

念願の将棋団体戦全国優勝

文星芸術大学附属高等学校 将棋部



「優勝できてほっとした。3人で臨めたラストチャンスをものできたのは嬉しい」と話すのは、8月に開催された全国高等学校将棋選手権大会の男子団体戦で見事、本県初の優勝を手にした文星芸術大学附属高等学校将棋部の3人。



小林智晴さん、阪本駿さん、福田雄太さん

昨年の同大会でも、本校チームとしては初の決勝トーナメントまで進みましたが、準々決勝敗退という悔しい結果に。ただ、決勝で上位に入った学校に予選では勝っていたため、勝利への手応えをつかむことができ、「昨年の経験が今回の優勝につながった」と、

振り返ります。

「良いライバルであり、味方になると安心する。これ以上心強いものはない」と、お互いを信頼しあって、「最高のメンバー」だと話す3人。将棋の魅力は、勝ち負けがはっきりするおもしろさやルールの複雑さにあると言います。

「将棋は生きがい。これからも続け、個人でも、一般のアマチュア大会で上位を狙いたい」と、互いに切磋琢磨し、次なる高みを目指します。